

日蓮大聖人御書全集

うえのどのごへんじ

上野殿御返事

こうえのどのついぜん こと

（故上野殿追善の事）

新版
1836
〜
1837

うえのどのごへんじ　こうえのどのついぜん　こと

上野殿御返事（故上野殿追善の事）

ぶんえい

ねん

がつ

にち

さい

うえののあま

なんじようときみつ

文永11年（'74）7月26日

53歳

上野尼・南条時光

がもくじゅうれん

川海苔にじよう

生

薑

にじつそく

た

そうら

鵜目十連・かわのり二帖・しようこう二十束、給び候い

お

了わんぬ。

鎌倉

仮初

おんこと

思

そうら

かまくらにてかりそめの御事とこそおもいまいらせ候

思

忘

たま

もう

いしに、おもいわすれさせ給わざりけること、申すばかり

なし。

故上野殿

常

もう

承

こうえのどのだにもおわせしかばつねに申しうけたまわ

歎

思

そうら

御

形

見

おん身

りなんと、なげきおもい候いつるに、おんかたみに御みを

若 留 置 姿 違 たま

わかくしてとどめおかれけるか。すがたのたがわせ給わぬ

みこころ 似 言 ほけきよう

に、御心さえにられけること、いうばかりなし。法華經に

ほとけ 成 たま そうろう 承 おん 墓 参

て仏にならせ給いて候 とうけたまわりて、御はかにまい

そうら

りて候いしなり。

おんこころ もう ことし 飢 渴

また、この御心ざし申すばかりなし。今年のけかちに

始 さんちゆう き 木 葉 打 敷

はじめたる山中に、木のもとにこのはうちしきたるような

住 処 思 たま

るすみか、おもいやらせ給え。

読 そうろうおんきよう いちぶん 故 殿 えこう

このほどよみ候 御經の一分、ことのへ回向しまいらせ

そうろう

候。

ひと

こ

持

涙

あわれ、人はよき子はもつべかりけるものかなと、なみだ

そうら

みょうしょうごんのう

ふたりのこ

導

かきあえずこそ候え。妙莊嚴王は二子にみちびかる。

おう

あくにん

故上

野

殿

ぜんにん

彼

似

かの王は悪人なり。こうえのどのは善人なり。かれにはにる

なんみょうほうれんげきよう

なんみょうほうれんげきよう

べくもなし。南無妙法蓮華経、南無妙法蓮華経。

しちがつにじゅうろくにち

にちれん

かおう

七月二十六日

日蓮

花押

ごへんじ

御返事

ひと

強

語

たも

若

との

そうら

人にあながちにかたらせ給うべからず。わかき殿が候

もう

えば申すべし。